

第42回埼玉県細胞検査士会学術集会 症例検討会・解説

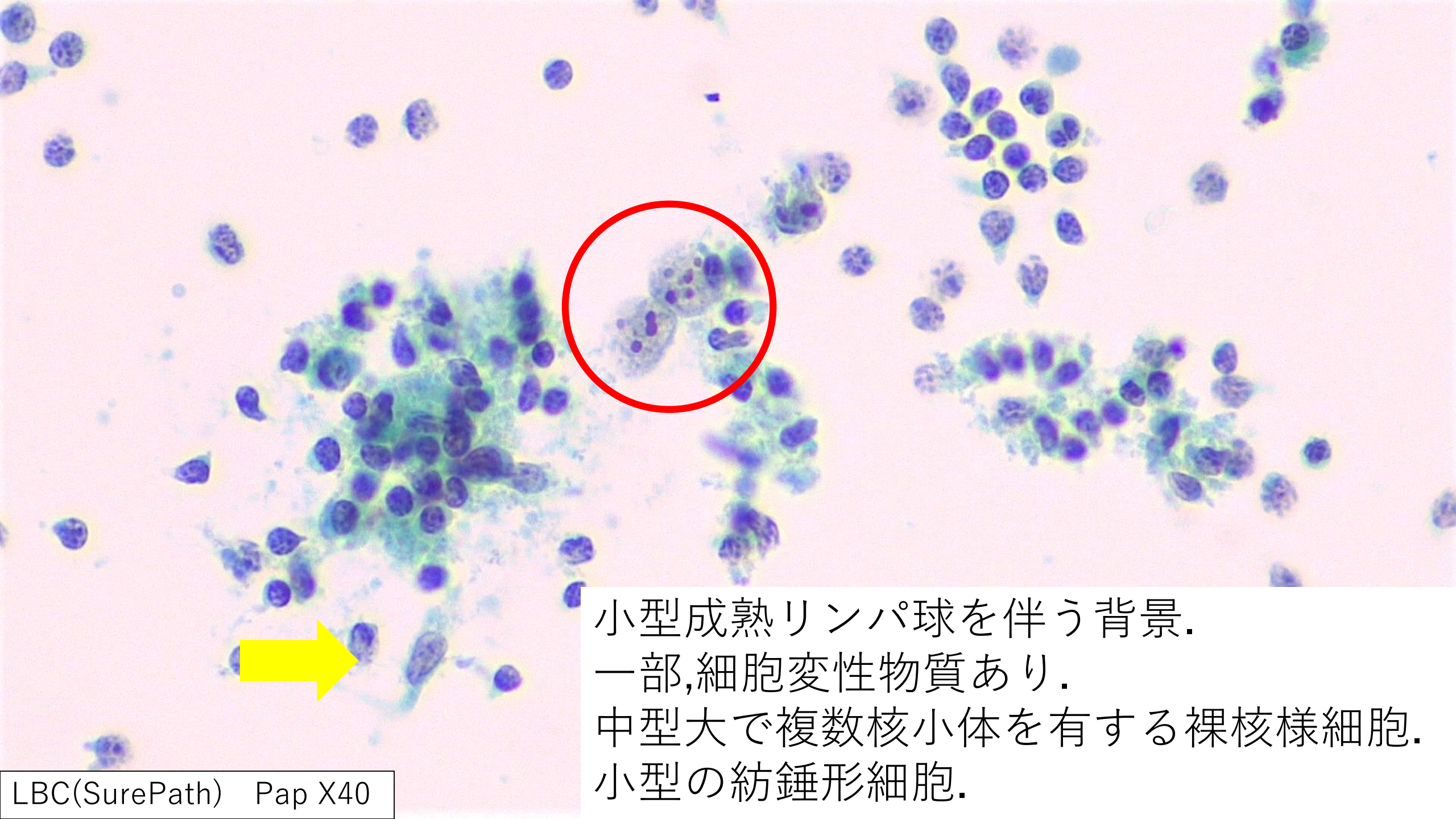
症例 2 ～リンパ節～

推定病変選択枝

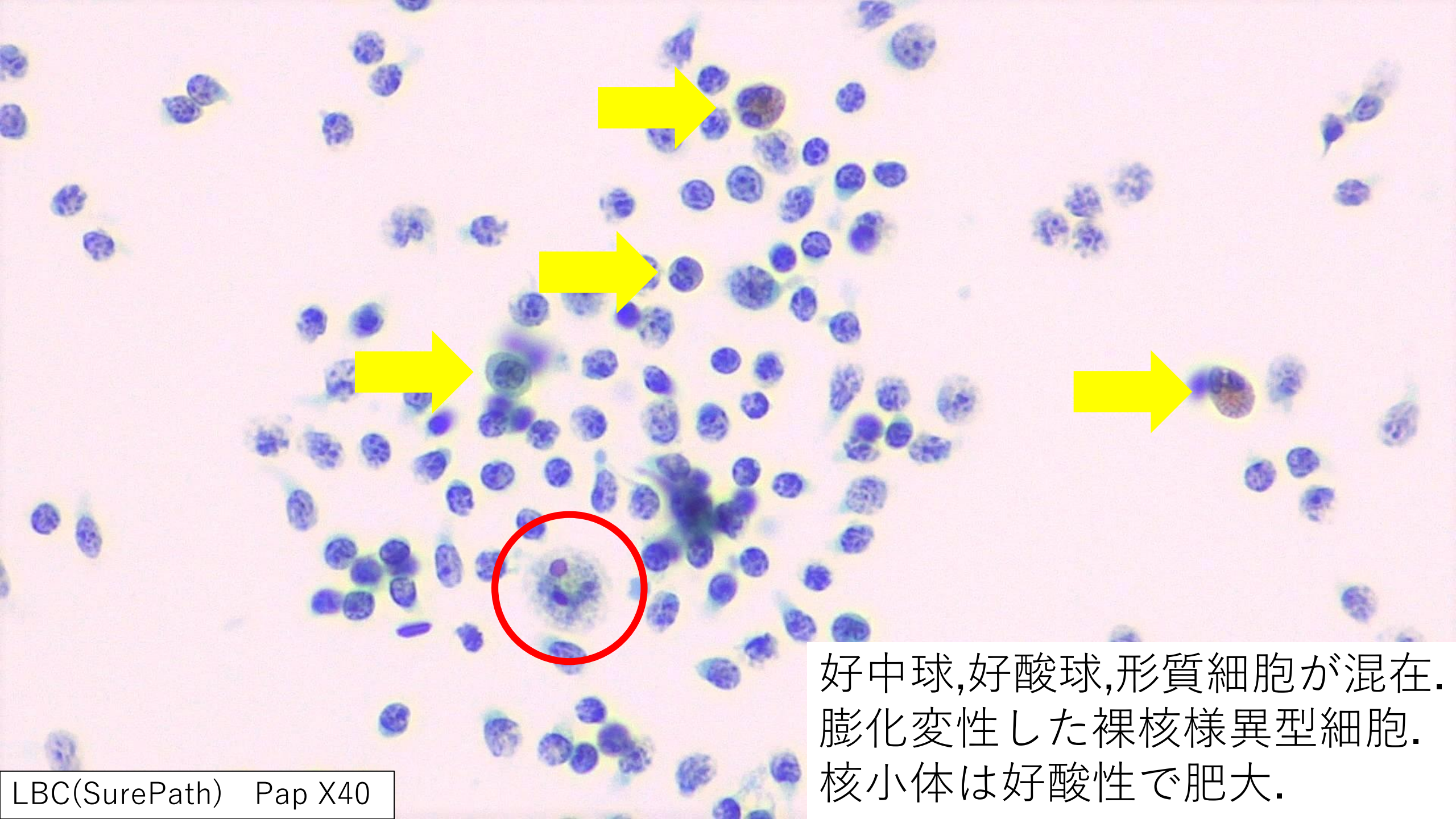
1. Reactive lymphadenitis
2. Tuberculosis
3. Adenocarcinoma
4. Hodgkin lymphoma
5. Follicular lymphoma

事前集計結果

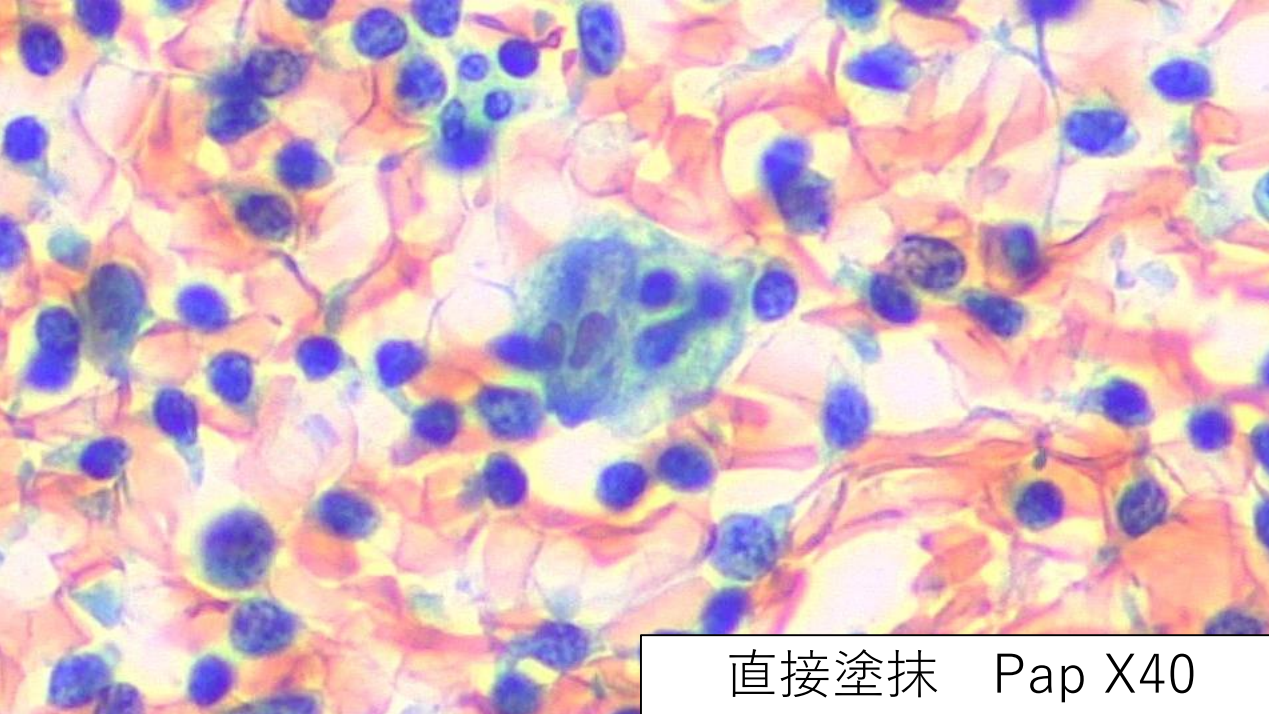
1. Reactive lymphadenitis (6)
2. Tuberculosis (2)
3. Adenocarcinoma (3)
4. Hodgkin lymphoma (22)
5. Follicular lymphoma (0)



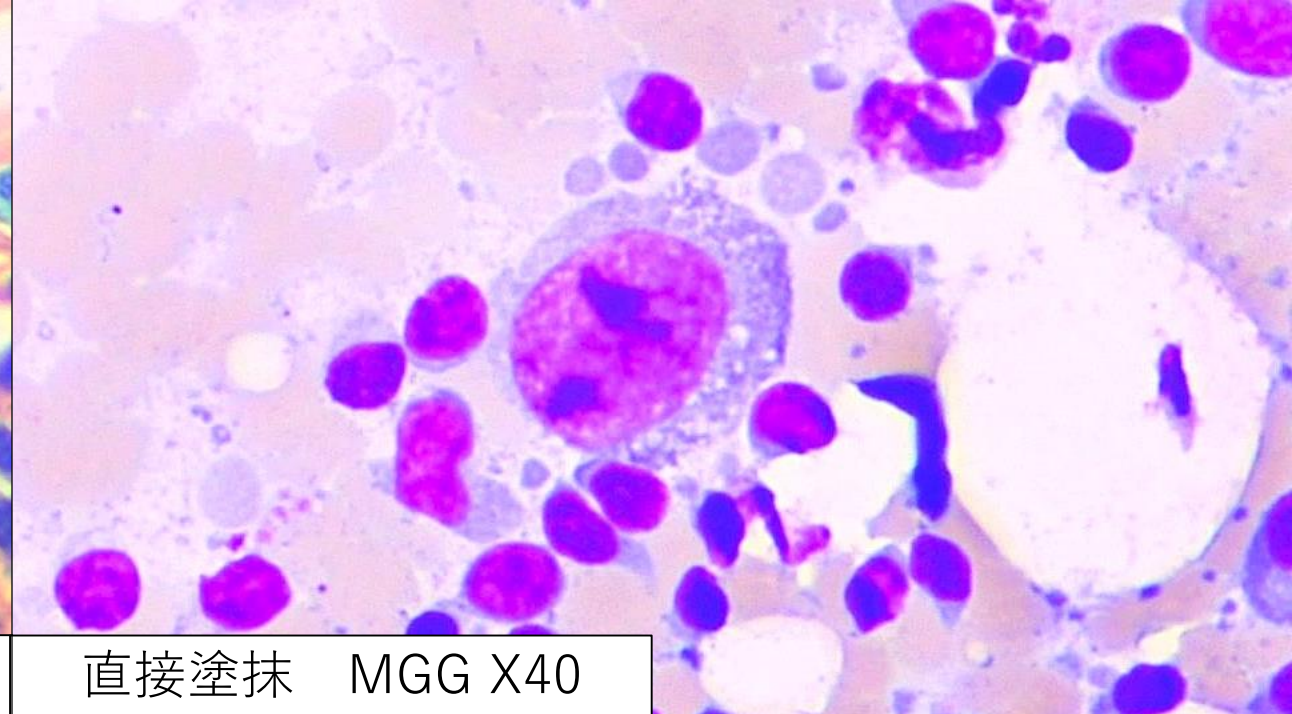
小型成熟リンパ球を伴う背景.
一部,細胞変性物質あり.
中型大で複数核小体を有する裸核様細胞.
小型の紡錘形細胞.



好中球,好酸球,形質細胞が混在.
膨化変性した裸核様異型細胞.
核小体は好酸性で肥大.



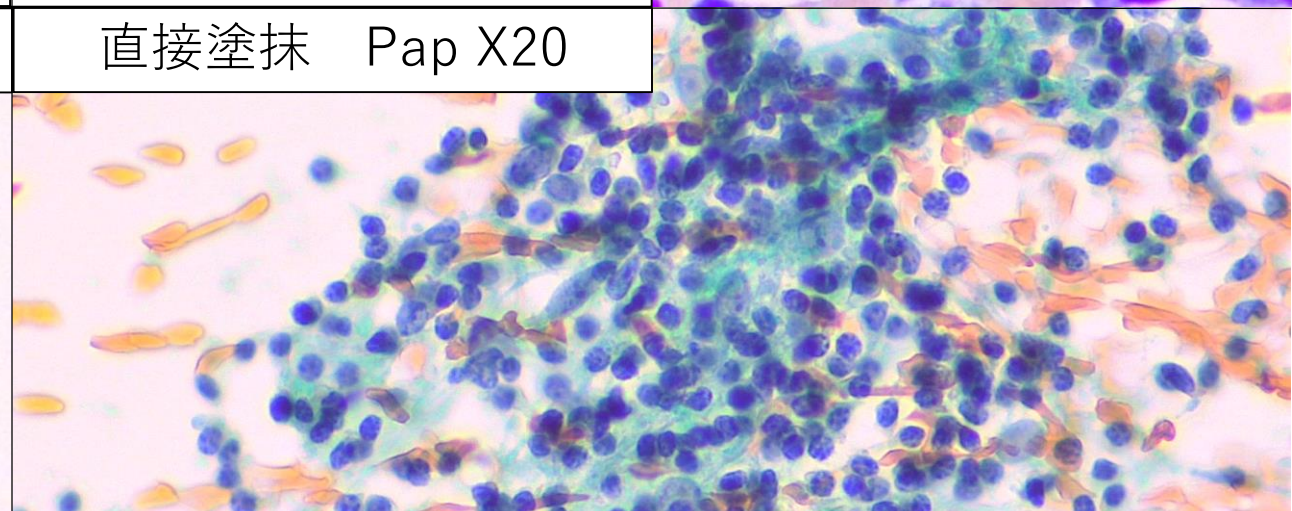
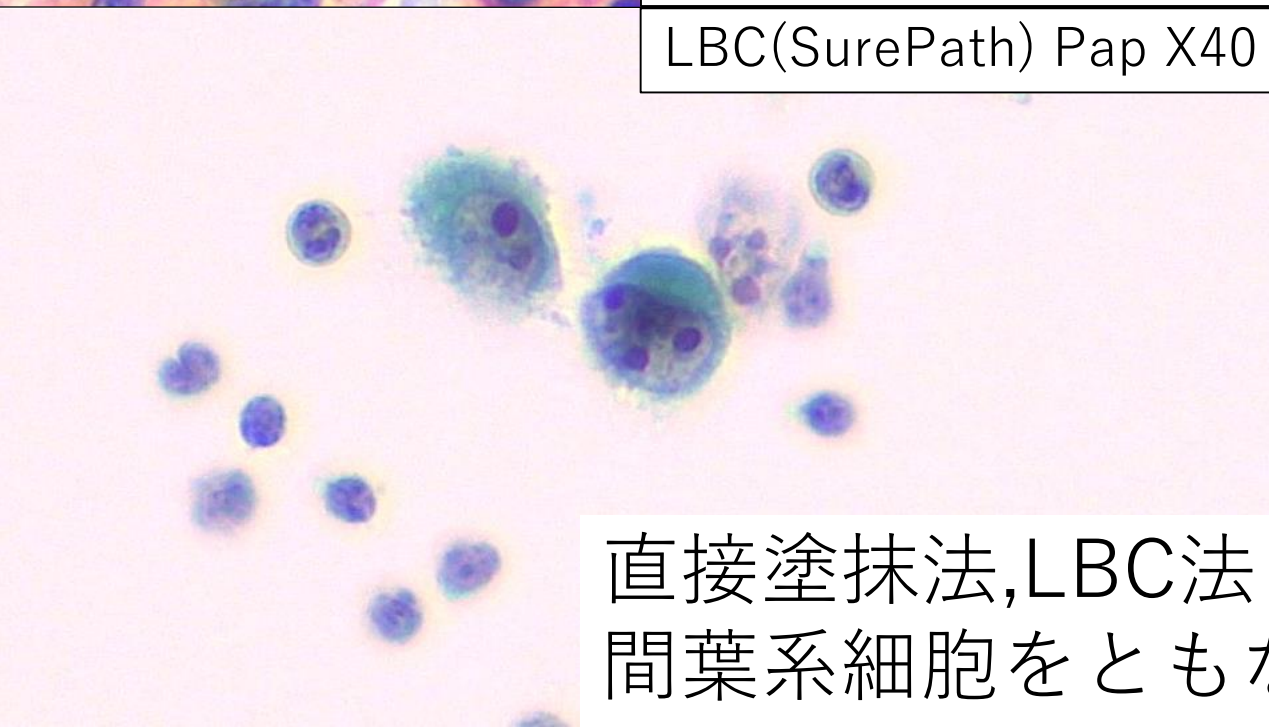
直接塗抹 Pap X40



直接塗抹 MGG X40

LBC(SurePath) Pap X40

直接塗抹 Pap X20

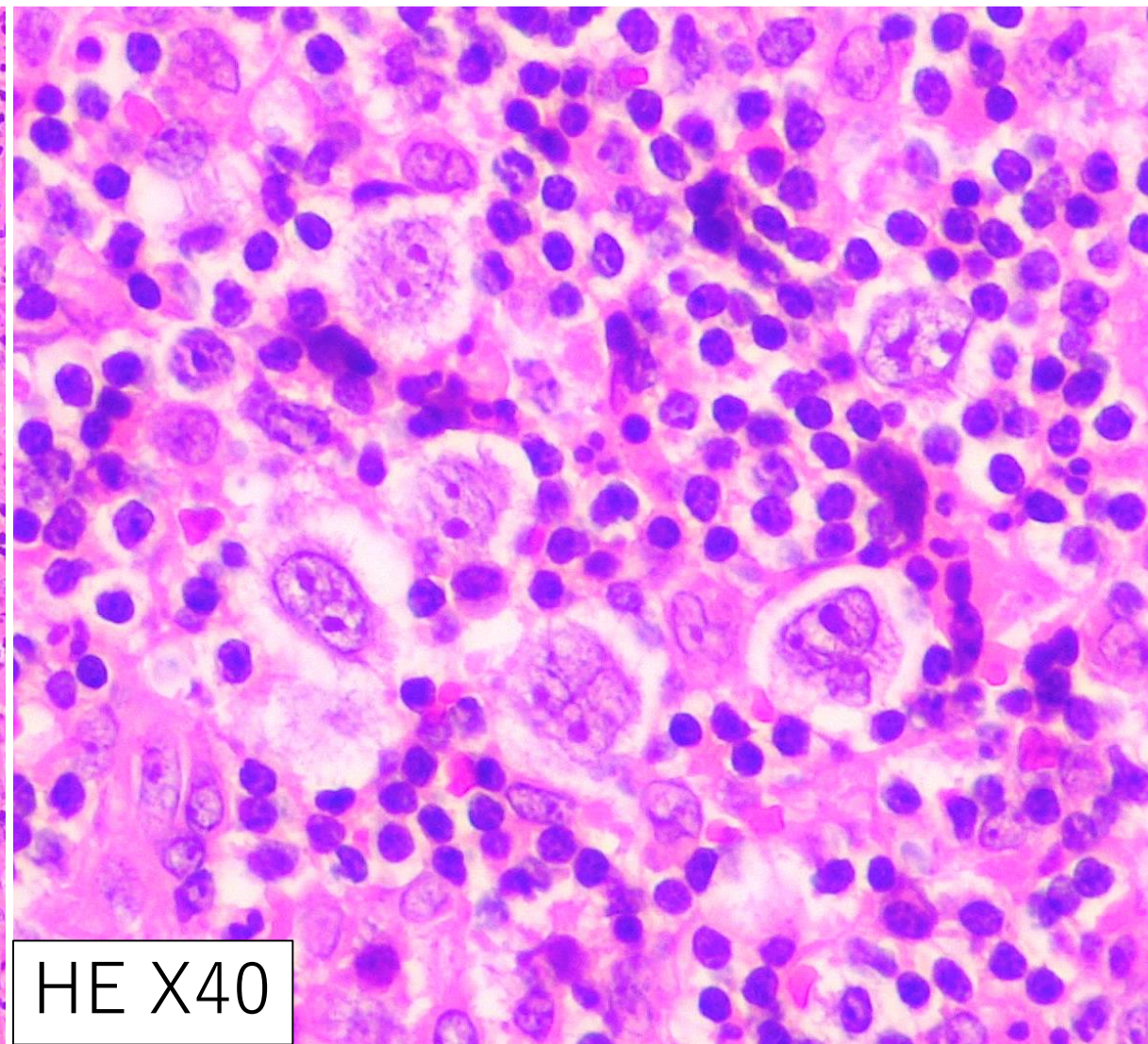
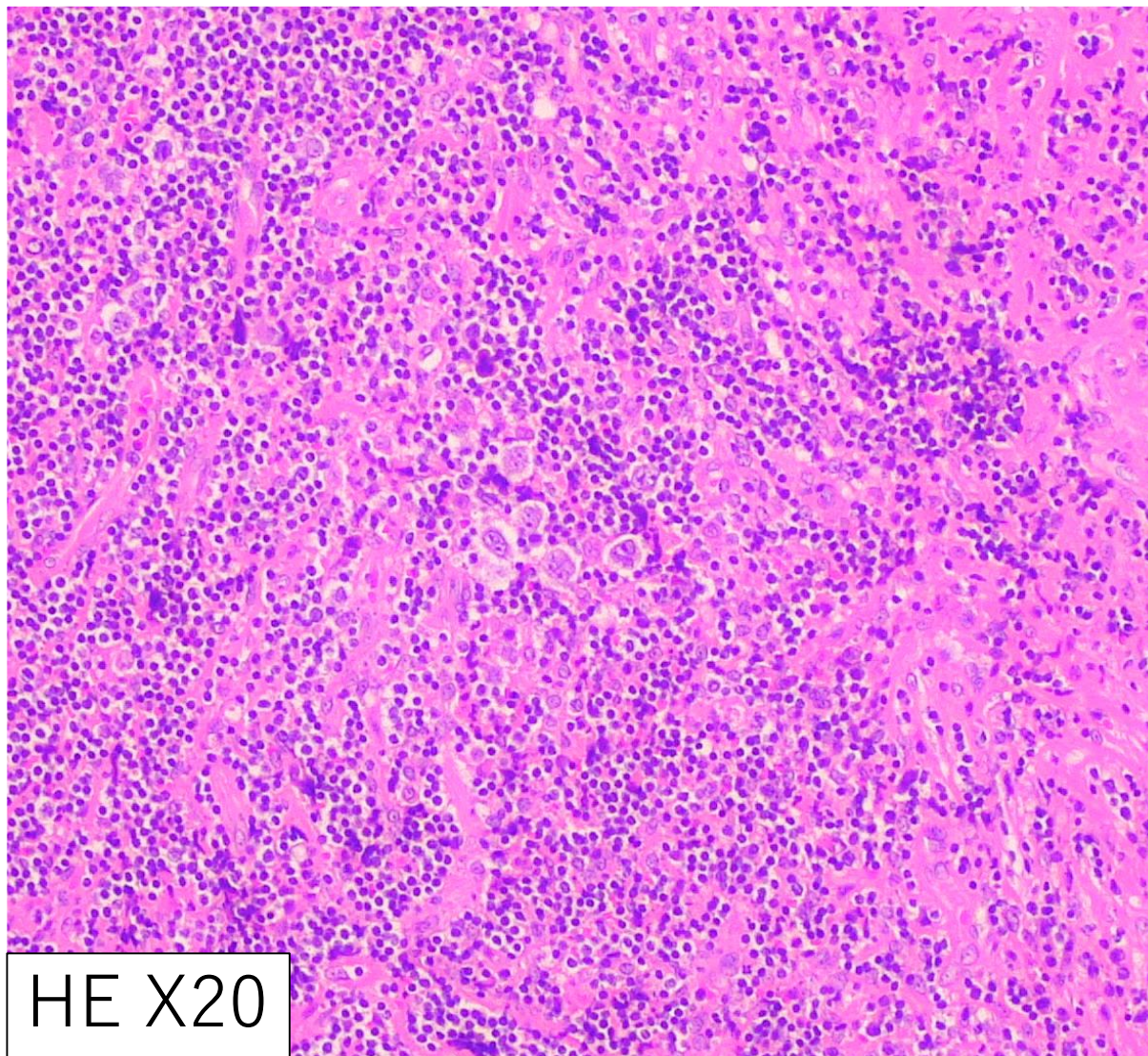


直接塗抹法,LBC法いずれも類似した異型細胞が出現.
間葉系細胞をともなったリンパ球集簇像もあり.

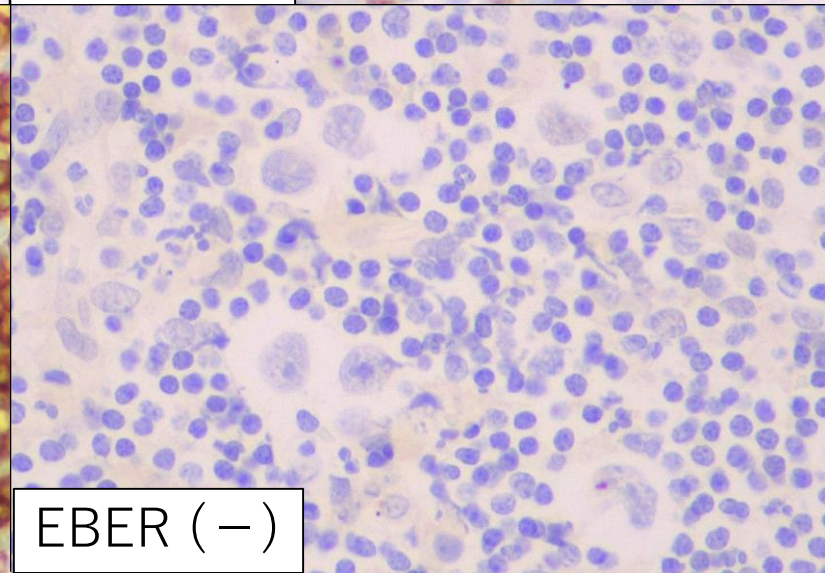
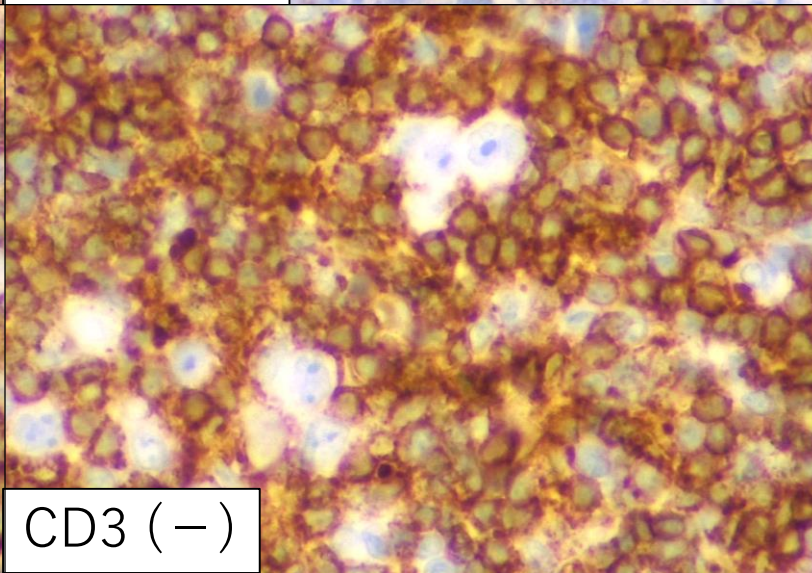
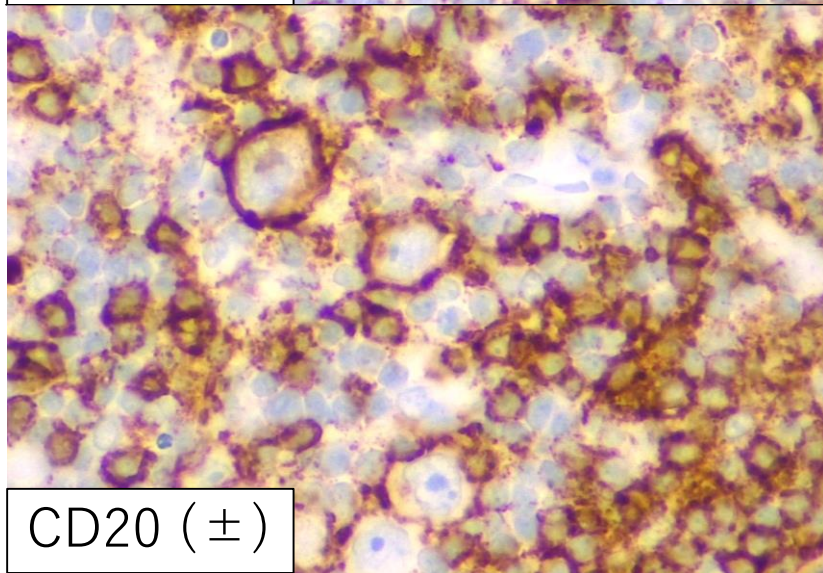
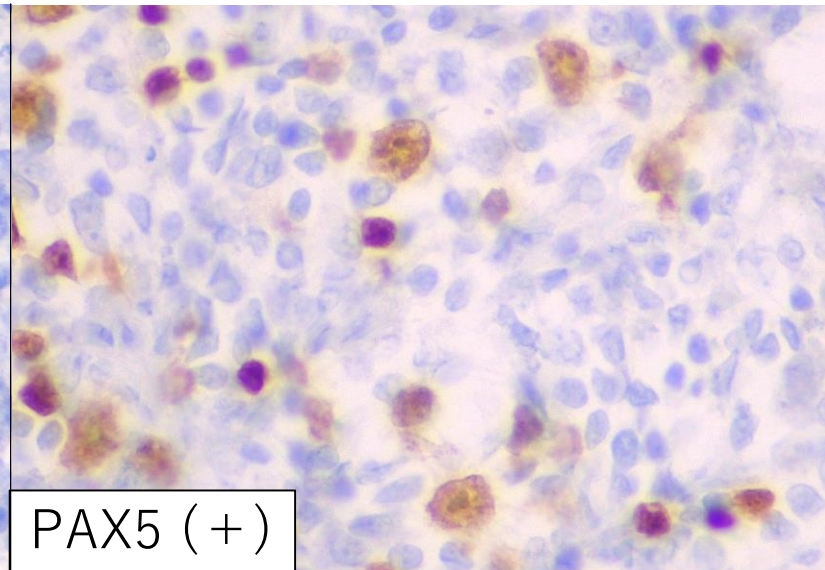
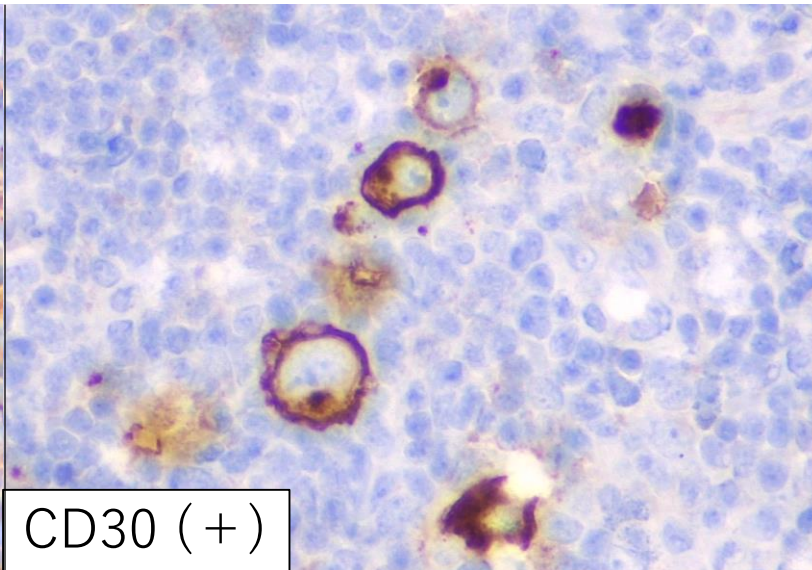
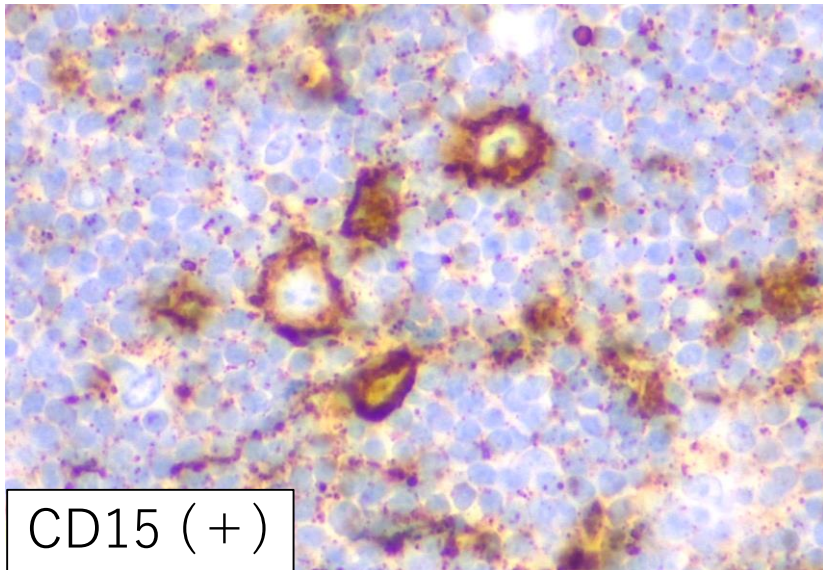
細胞所見 まとめ

- 血性背景に小型成熟リンパ球主体の像.
- 好中球,好酸球,形質細胞も混在.
- 一部で紡錘形細胞が介在.
- 中～大型の異型細胞が孤立性に出現.
- 細胞質はやや不明瞭で裸核様.
- 異型細胞の核小体は肥大,不整形,複数個

組織所見



免疫組織化學所見



A , Classic Hodgkin lymphoma, nodular sclerosis

1 , Reactive lymphadenitis

2 , Tuberculosis

3 , Adenocarcinoma

4 , Hodgkin lymphoma

5 , Follicular lymphoma

Classic Hodgkin lymphoma

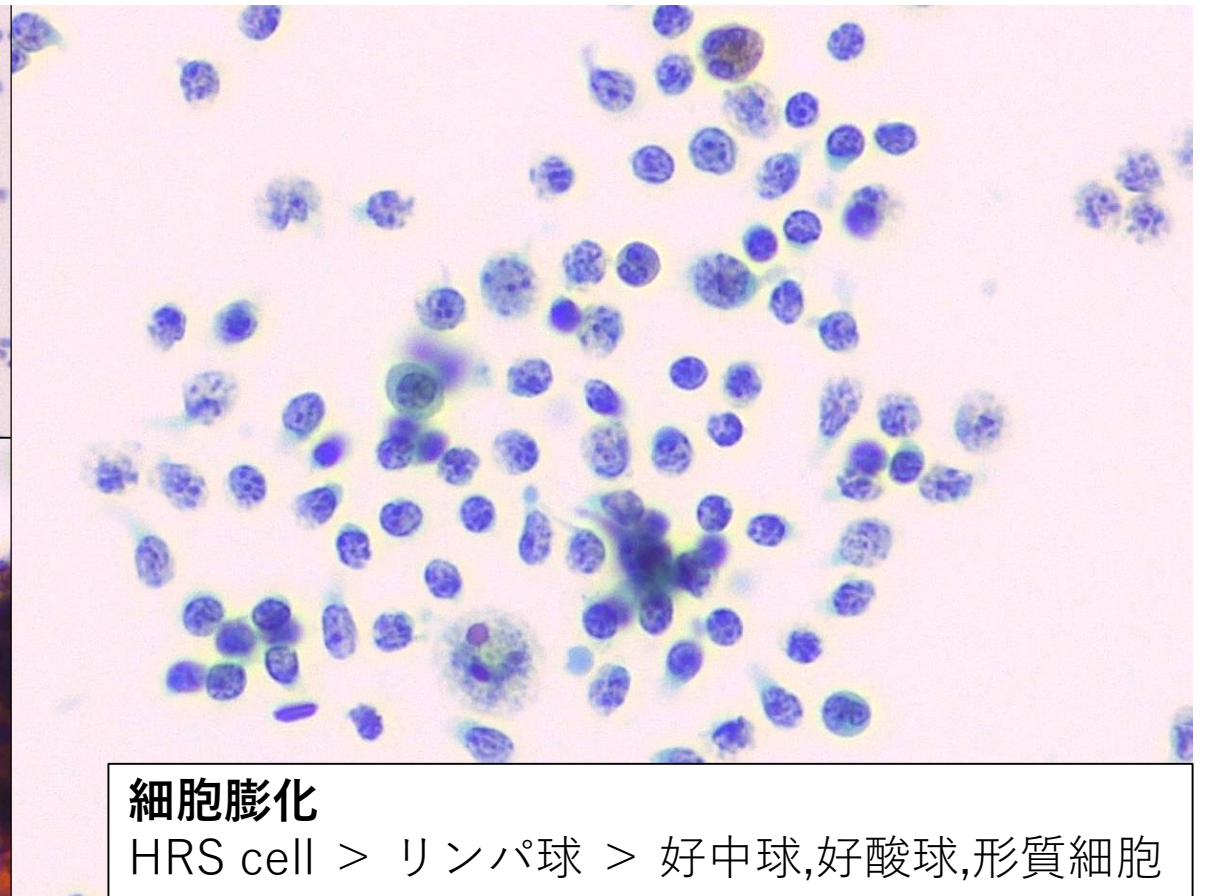
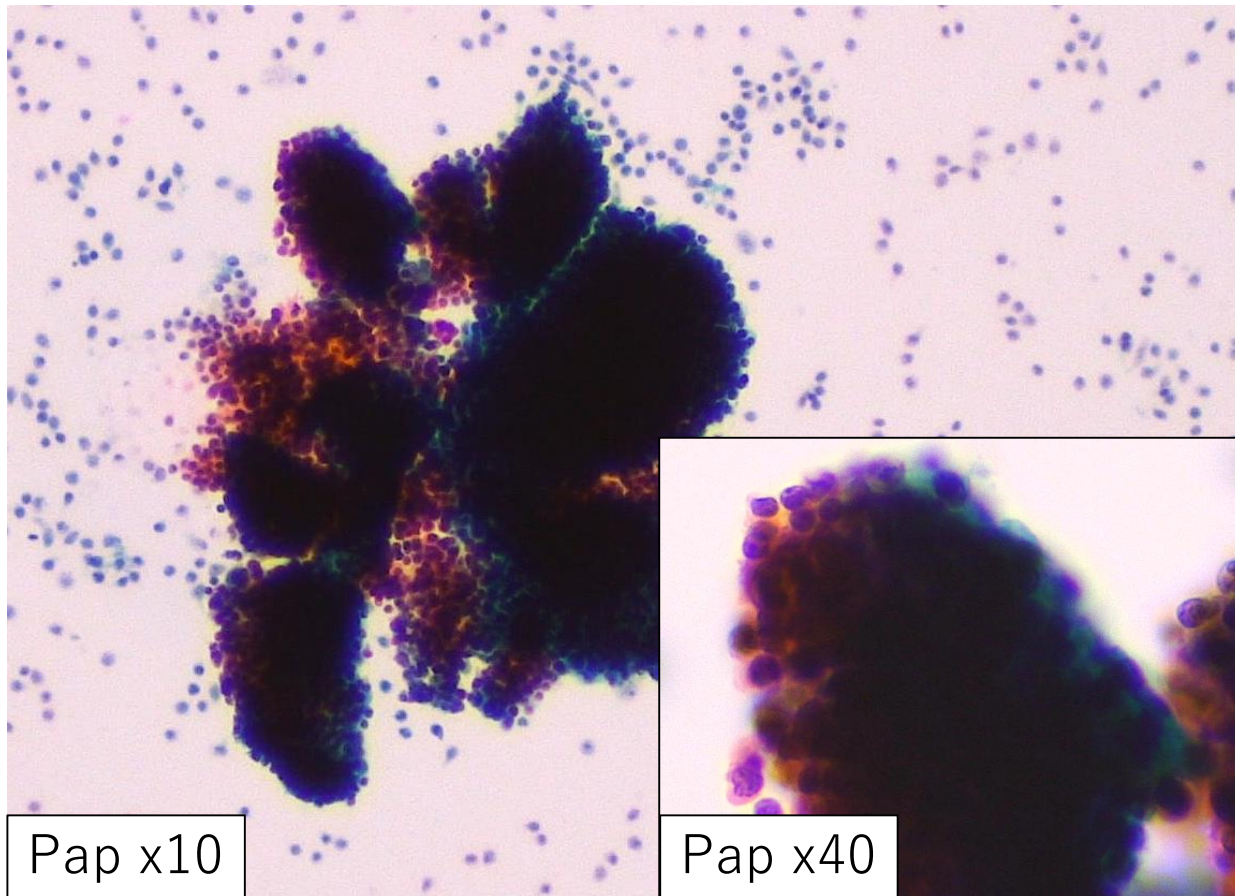
- 小型リンパ球主体を主体とする炎症性細胞.
- 炎症細胞には組織球,類上皮,好酸球,形質細胞,線維芽細胞がみられる.
- 好中球は通常みられないが,結節硬化型で出現.
- 腫瘍細胞は大型核小体を有する.
- 核小体周囲明庭 (halo) を呈する.

リンパ節LBC (SurePath法) の特徴

- ✓ 背景所見は減弱傾向を示し, 清明となる.
- ✓ 塗抹様式は均一薄層となる.
- ✓ 集簇傾向を示し, 上皮性結合との鑑別を要する.
- ✓ 細胞膨化傾向を認め, 特にリンパ腫細胞で優位にみられる.
- ✓ 細胞立体感にともなう核異型が観察しやすい.

LBC (SurePath法)の特徴

➤ 集簇傾向、細胞膨化

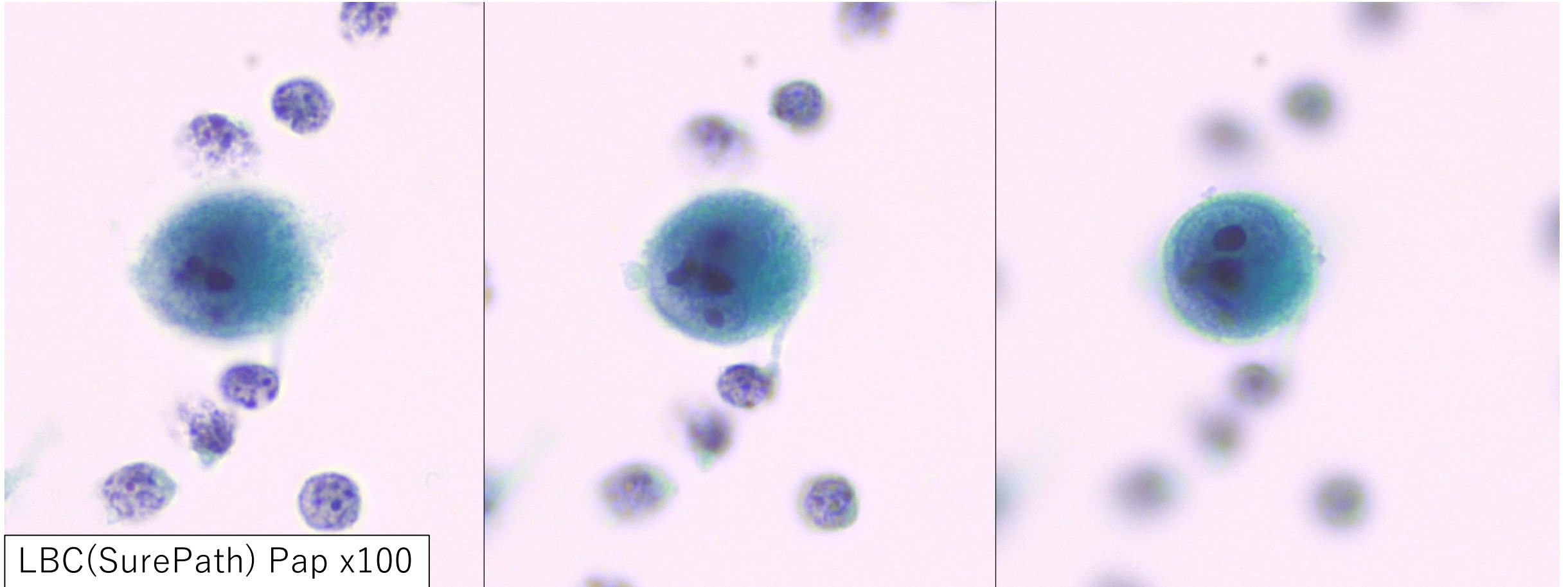


細胞膨化

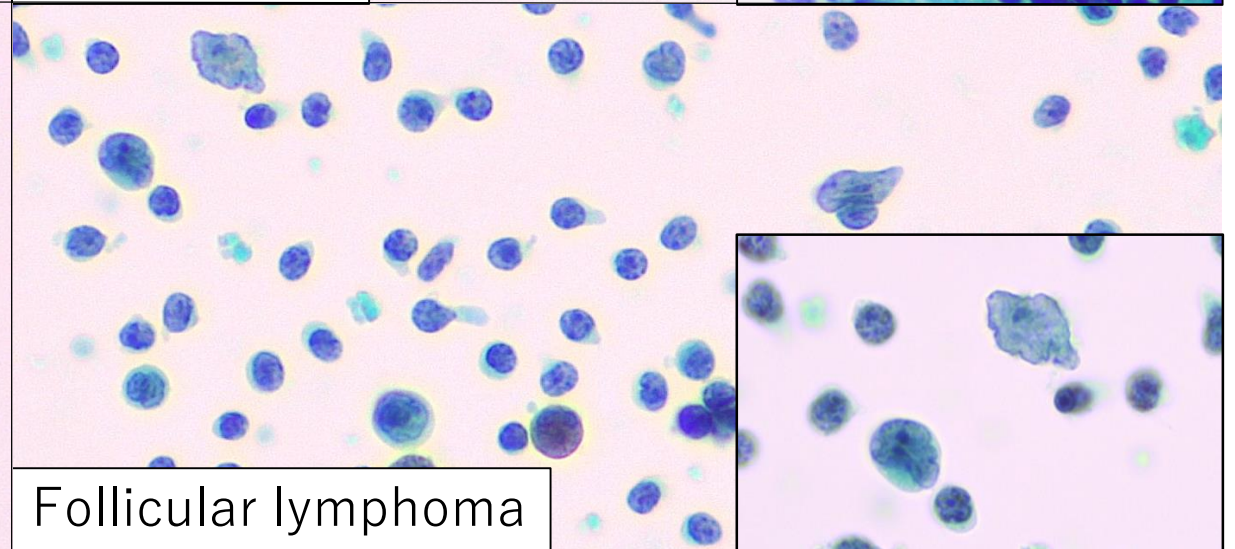
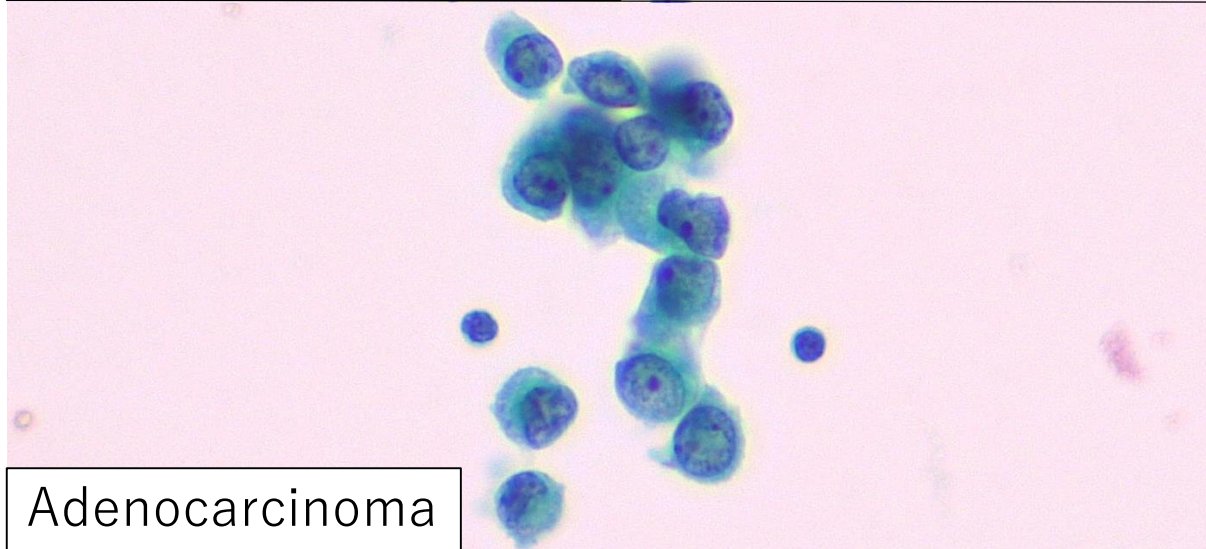
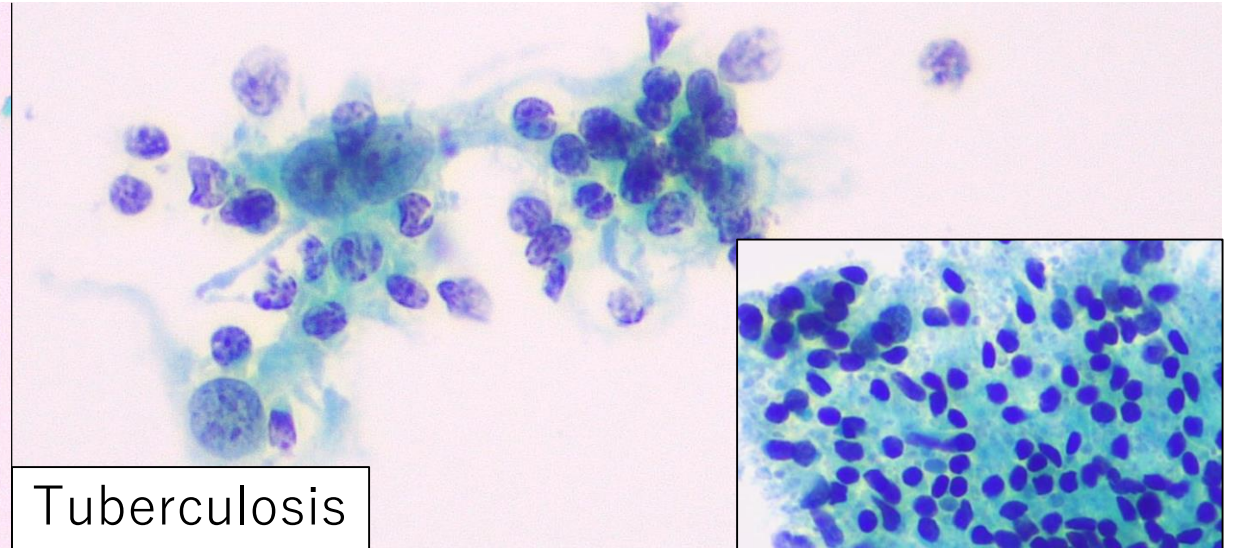
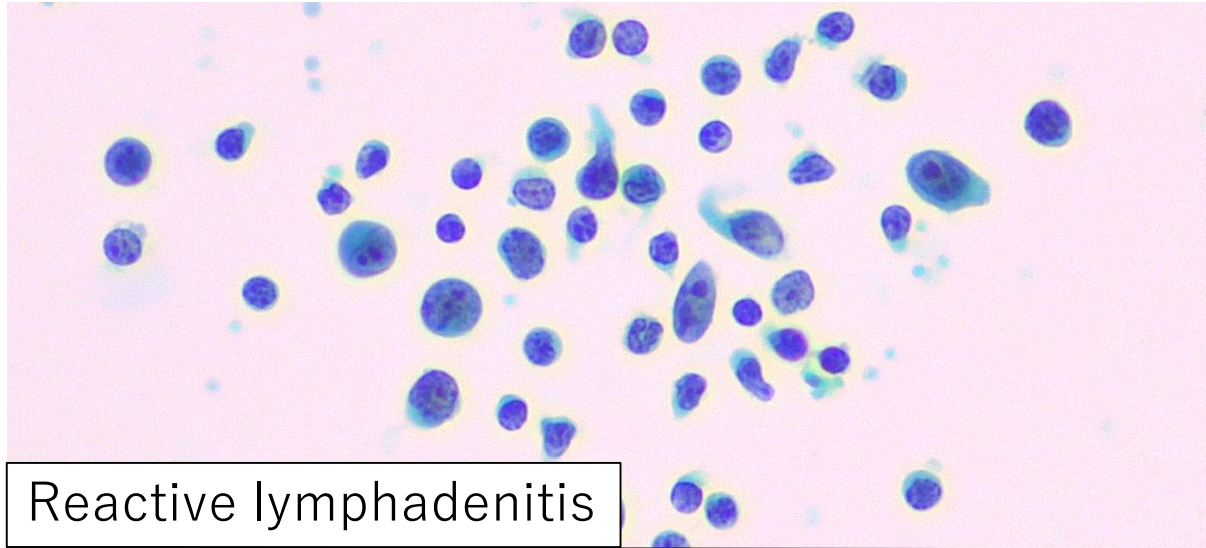
HRS cell > リンパ球 > 好中球,好酸球,形質細胞

LBC(SurePath法)の特徴

➤ 立体感



鑑別診断 (LBC)



リンパ節LBC 総括

- ✓ 細胞回収率の向上.
- ✓ アーチファクト(核線, 乾燥)の軽減.
- ✓ 検体保管による遺伝子, ICC検査への応用が可能.
- ✓ ギムザ標本の作製不可.
- ✓ 細胞固定液, 針洗浄液による細胞像の変化にともなう細胞所見の画一性に乏しい.

➔ 直接塗抹法との併用による検討が不可欠.